

命と暮らしを守る政治を！もう自公政権にはまかせられない

—市民と野党の出番！—

4. 18 岐阜総がかり行動 ～第19弾～

お礼とご報告

2021年4月19日

戦争させない・9条壊すな！岐阜総がかり行動実行委員会

近づく総選挙、市民と野党の共闘誓う

オッペケペー節で菅政治を風刺

集会・デモによる「4・18」岐阜総がかり行動を実施。今年初のデモということもあって180人の参加を数え、氣勢が上がりました。

集会場所は、今後はここを使用することになる「清水緑地公園」（JR岐阜駅南）。



始め、「菅さんは今、渡米してバイデン大統領と会談しているが、過大な宿題をもらって帰ってくるに違いない。国民はたまったものじゃない」と庶民の気持ちを代弁。

続けて、長丁場の腐敗政治に対抗するために、「私たちには今、政権に抵抗するふてぶてしさや反骨精神が求められている。過去に学んで不屈の闘志を培おう」と呼掛けました。

続いて野党代表の皆さんが次々と登壇して、共闘の必要性を強調。

立憲民主党の阪口直人さん（県総支部連合会・副代表 3区）は真っ赤なマスク姿で、ミャンマーで捕らわれの身のアンサンスーチーさんの写真をかざして、その国際的な視線からの話。



日本共産党の山越徹さん（岐阜市委員会・委員長 1区）は白いマスク。政府のコロナ対策の無策ぶりを問題に。



国民民主党の大谷由里子さん（県総支部連合会・副代表 2区）はオレンジ色のマスク姿で、「選挙に勝たねば何も始まらない」と強調しました。



県労連の宣伝カーを乗り入れ、それをバックにアピール者の熱弁が相次ぎました。

今回の集会開催の主旨は「コロナ対策の失格」を始めとする「菅政治の底なし腐敗」追及、中でも「デジタル庁」という国民の一元管理という強権政治に「ノー」を突きつけることにありました。そのために、秋までにやって来る総選挙を「市民と野党で勝利する」ことを確認し合うことでした。

冒頭、主催者を代表して副代表の高橋恒美が登壇。急きょ病氣入院した河合良房代表に代わって挨拶を行いました。

「変異株は増えても政府は変異せず」という愉快的な川柳を紹介することから話を



社民党の森廣茂さん（県連合代表）は残念ながら、急きょ体調を崩され、メッセージが届きました。

その後を彩ったのは、明治の自由民権の士・川上音二郎が作った、当時大反響を呼んだ「オッペケペー節」に因む「スガのお粗末 オッペケペー節」。会場の笑いを誘いました。参考までに、その一節をご披露。



いつから増えたか 健忘症

「記憶にない」「調べます」

煩惱の 数より多いウソの数

答えずに「問題ない」が 問題だ

結局は ボロが出ぬよう 紙を読む

オッペケペ オッペケペ

オッペケペッポー ペッポッポー



会場盛り上げの仕上げは「ボード掲げ」。赤と青の両面を使って、司会の青木眞理さんの掛け声で、参加者は“ボードアピール”を行いました。



デモは同公園から金公園に近いからくり時計前までの1.5km。あいにくの冷たいにわか雨と寒風。それにも負けずシュプレヒコールとアピール文の読み上げを繰り返して、長良川橋通りの市民に、熱い思いを訴えることが出来ました。



ご参加の皆さま、本当にありがとうございました。